

Systemwalker Centric Manager



動作環境定義チェックツール 説明書

UNIX/Windows(R)共通

B1WD-0351-04Z0(00)
2010年4月

まえがき

本書の目的

本書は、Systemwalker Centric Manager V13.4.0の動作環境定義チェックツールの導入方法、運用方法について説明しています。

なお、本書は、Solaris版/Linux版/Windows版を対象としています。

本書の読者

本書は、Systemwalker Centric Managerを導入された方を対象としています。

また、本書を読む場合、OSやGUIの一般的な操作、およびTCP/IPやSMTPなどの一般的な知識をご理解の上でお読みください。

本書の表記について

エディションによる固有記事について

本書では、標準仕様である“Systemwalker Centric Manager Standard Edition”の記事と区別するため、エディションによる固有記事に対して以下の記号をタイトル、または本文に付けています。

EE:

“Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition”の固有記事

GEE:

“Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition”の固有記事

EE/GEE:

“Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition”、および“Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition”の固有記事

固有記事の範囲は、タイトル、または本文に付いた場合で以下のように異なります。

タイトルに付いている場合

章/節/項などのタイトルに付いている場合、タイトルの説明部分全体が、固有記事であることを示します。この場合、タイトルに対して、オンラインマニュアルの場合は色付けされます。

本文に付いている場合

固有記事全体に対して、オンラインマニュアルの場合は色付けされます。

Windows版とUNIX版の固有記事について

本書は、Windows版、UNIX版共通に記事を掲載しています。Windows版のみの記事、UNIX版のみの記事は、以下のように記号をつけて共通の記事と区別しています。

タイトル【Windows版】

タイトル、小見出しの説明部分全体が、Windows版固有の記事です。

タイトル【UNIX版】

タイトル、小見出しの説明部分全体が、UNIX版固有の記事です。

本文中でWindows版とUNIX版の記載が分かれる場合は、“Windows版の場合は～”“UNIX版の場合は～”のように場合分けして説明しています。

記号について

[]記号

Systemwalker Centric Managerで提供している画面名、メニュー名、および画面項目名をこの記号で囲んでいます。

コマンドで使用する記号

コマンドで使用している記号について以下に説明します。

記述例

[PARA={ a b <u>c</u> … }]

記号の意味

記号	意味
[]	この記号で囲まれた項目を省略できることを示します。
{ }	この記号で囲まれた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。
—	省略可能記号“[]”内の項目をすべて省略したときの省略値が、下線で示された項目であることを示します。
	この記号を区切りとして並べられた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。
…	この記号の直前の項目を繰り返して指定できることを示します。

マニュアルの記号について

マニュアルでは以下の記号を使用しています。

注意

特に注意が必要な事項を説明しています。

ポイント

知っておくと便利な情報を説明しています。

略語表記について

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows 7”と表記します。
 - Windows(R) 7 Home Premium
 - Windows(R) 7 Professional
 - Windows(R) 7 Enterprise
 - Windows(R) 7 Ultimate
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 R2”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard without Hyper-V(TM)

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise without Hyper-V(TM)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 Foundation”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 Server Core”、または“Server Core”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) Server Core
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 STD”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 DTC”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 EE”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 STD”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 DTC”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 EE”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) 2000”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional operating system
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server operating system
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Datacenter Server operating system

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows NT(R)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 4.0
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 3.51
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 3.51
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) XP”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Vista”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Basic
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Premium
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
- Microsoft(R) Windows(R) Millennium Editionを“Windows(R) Me”と表記します。
- Microsoft(R) Windows(R) 98 operating system, Microsoft(R) Windows(R) 98 Second Editionを“Windows(R) 98”と表記します。
- Microsoft(R) Windows(R) 95 operating system, Microsoft(R) Windows(R) 95 Second Editionを“Windows(R) 95”と表記します。
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 STD(x64)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 DTC(x64)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 EE(x64)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows(R) 2000 Server”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows(R) XP x64”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition
- Systemwalker Centric Manager Standard Editionを“SE版”と表記します。
- Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionを“EE版”と表記します。
- Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Editionを“GEE版”と表記します。
- Standard Editionを“SE”、Enterprise Editionを“EE”、Global Enterprise Editionを“GEE”と表記します。
- Windows上、Itaniumに対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Windows版”と表記します。
- Itaniumに対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Windows for Itanium版”と表記します。
- Windows Server 2003 STD(x64)/Windows Server 2003 DTC(x64)/Windows Server 2003 EE(x64)に対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Windows x64版”と表記します。
- Solaris(TM) オペレーティングシステムを“Solaris”と表記します。
- Solarisで動作するSystemwalker Centric Managerを“Solaris版 Systemwalker Centric Manager”または“Solaris版”と表記します。

- HP-UX上で動作するSystemwalker Centric Managerを“HP-UX版Systemwalker Centric Manager”または“HP-UX版”と表記します。
- AIX上で動作するSystemwalker Centric Managerを“AIX版Systemwalker Centric Manager”または“AIX版”と表記します。
- Linux上、Itaniumに対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Linux版Systemwalker Centric Manager”または“Linux版”と表記します。また、Itaniumに対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Linux for Itanium版”と表記します。
- Linux上、Linux for Intel64に対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Linux版Systemwalker Centric Manager”または“Linux版”と表記します。また、Linux for Intel64に対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Linux for Intel64版”と表記します。
- Solaris、Linux、HP-UX、AIX上で動作するSystemwalker Centric Managerを、“UNIX版Systemwalker Centric Manager”または“UNIX版”と表記します。
- Microsoft(R) SQL Server(TM)を“SQL Server”と表記します。
- Microsoft(R) Visual C++を“Visual C++”と表記します。
- Microsoft(R) Cluster ServerおよびMicrosoft(R) Cluster Serviceを“MSCS”と表記します。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または提供する場合は、外国為替および外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

商標について

Apache、Tomcatは、The Apache Software Foundationの登録商標または商標です。

APC、PowerChuteは、American Power Conversion Corp.の登録商標です。

ARCserveは、米国CA, Inc.の登録商標です。

Citrix、MetaFrameは、Citrix Systems, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。

Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

HP-UXは、米国Hewlett-Packard社の登録商標です。

IBM、IBMロゴ、AIX、AIX 5L、HACMP、Power、PowerHAは、International Business Machines Corporationの米国およびその他の国における商標です。

Intel、Itaniumは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

JP1は、株式会社日立製作所の日本における商標または登録商標です。

LaLaVoiceは、株式会社東芝の商標です。

LANDeskは、米国およびその他の国におけるAvocent Corporationとその子会社の商標または登録商標です。

Laplinkは、米国Laplink Software, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

MC/ServiceGuardは、Hewlett-Packard Companyの製品であり、著作権で保護されています。

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Vista、Windows Serverまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Mozilla、Firefoxは、米国Mozilla Foundationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

NEC、SmartVoice、WinShareは、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

Netscape、NetscapeのN および操舵輪のロゴは、米国およびその他の国におけるNetscape Communications Corporationの登録商標です。

OpenLinuxは、The SCO Group, Inc.の米国ならびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Oracleは、米国Oracle Corporationの登録商標です。

Palm、Palm OS、HotSyncは、Palm, Inc.の商標または登録商標です。

R/3およびSAPは、SAP AGの登録商標です。

Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SolarisおよびすべてのSolarisに関連する商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標であり、同社のライセンスを受けて使用しています。

Sun、SunClusterは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、LiveUpdate、Norton AntiVirusは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Symantec pcAnywhere、Symantec Packager、ColorScale、SpeedSendは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における商標です。

Tcl/Tkは、カリフォルニア大学、Sun Microsystems, Inc.、Scriptics Corporation他が作成したフリーソフトです。

TRENDMICRO、Trend Micro Control Manager、Trend Virus Control System、TVCS、InterScan、ウイルスバスター、INTERSCAN VIRUSWALL、eManagerは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。

Turbolinuxおよびターボリナックスは、ターボリナックス株式会社の商標または登録商標です。

UNIXは、米国およびその他の国におけるThe Open Groupの登録商標です。

UXP、Systemwalker、Interstage、Symfowareは、富士通株式会社の登録商標です。

Veritasは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

VirusScanおよびNetShieldは、米国McAfee, Inc.および関連会社の商標または登録商標です。

VMware、VMwareロゴ、Virtual SMP、VMotionはVMware, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ショートメール、iモード、mova、シティフォンは、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ(以下NTTドコモ)の登録商標です。

その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

平成22年4月

改版履歴
平成19年 5月 初 版
平成19年 8月 第2版
平成20年 6月 第3版
平成22年 4月 第4版

Copyright 1995-2010 FUJITSU LIMITED

All Rights Reserved, Copyright (C) PFU LIMITED 1995-2010

Portions Copyright (C) 1983-1994 Novell, Inc., All Rights Reserved.

目 次

第1章 動作環境定義チェックツールとは.....	1
1.1 概要.....	1
1.2 動作環境.....	2
第2章 動作環境定義チェックツールを使用する.....	4
2.1 インストールする.....	4
2.2 使用方法.....	4
2.3 アンインストールする.....	7
第3章 リファレンス.....	8
3.1 mpdefchk(動作環境定義チェックコマンド).....	8
3.2 動作環境定義チェックコマンドの出力ファイル.....	11
3.3 MpDefChkで始まるメッセージ.....	12
3.4 mpdefchkコマンドで出力されるメッセージ.....	25

第1章 動作環境定義チェックツールとは

動作環境定義チェックツールの概要について説明します。

1.1 概要

動作環境定義チェックツールとは、Systemwalker Centric Manager導入後の環境定義(OSやネットワーク環境の定義)が正しく設定されているかを調べるツールです。

運用中のトラブルを回避するため、事前に動作環境定義チェックツールを使用し、環境設定に問題がないかを確認してください。また、運用中に環境異常によるトラブルが発生した場合も、Systemwalker Centric Managerの設定に問題がないかを確認することができます。

ツールで確認する項目

システムの環境チェック

- ・ ファイアウォール機能の状態
TCP/UDPポート、またはプログラム(プロセス)が、Windowsファイアウォールによりブロックされていないかどうか確認します。
- ・ TCPポート
Systemwalker Centric Manager が利用するTCPポートが通信相手まで到達可能かを確認します。
- ・ SNMPエージェントの定義、起動可否
監視対象ノードのSNMPエージェントの動作環境を確認し、起動可否状態や、SNMPエージェントの動作定義を確認します。
- ・ デスクトップヒープ領域サイズ
デスクトップヒープ領域を定義するレジストリを参照し、値がデフォルトであるか否かを確認します。
- ・ syslogのメッセージ監視におけるホスト名の整合性
システム内でホスト名の定義が統一されていることを確認します。
- ・ 監視対象ノードのICMP応答
監視対象ノードへのICMP接続の可否を確認します。
- ・ 監視対象ノードのSNMP応答
SNMPエージェントとの通信可否を確認します。

システムのファイルチェック

- ・ syslog.confのメッセージ監視定義
syslog.confファイルの内容に誤りがないかを確認します。
- ・ servicesファイルの定義
servicesファイル定義内容をチェックし、適切なサービスが登録されているか、ポート番号が重複していないかを確認します。
- ・ systemファイルの定義
UNIX系OSの場合、システムパラメタのチューニングが適切に行われているかを確認します。

Systemwalker Centric Manager の設定チェック

- ・ hostsファイルの存在・定義
DRMS編集ファイルの定義内容をチェックし、名前解決が正しく行われるかを確認します。
- ・ ネットワーク・インタフェースの搭載枚数
ネットワーク・インタフェースが複数搭載されている場合、各機能の設定／定義に利用するIPアドレスが定義されているかを確認します。

- ・ 性能監視の監視ポリシー

MIBの実装状況、および監視不可能な監視項目を確認します。

1.2 動作環境

動作環境定義チェックツールを使用するために必要な環境について説明します。

- ・ [動作OS](#)
- ・ [機能別動作OS](#)
- ・ [その他の環境](#)

動作OS

動作環境定義チェックツールを導入するサーバ、クライアントの動作OSは、Systemwalker Centric Managerが動作するOSと同じです。詳細については、“Systemwalker Centric Manager 解説書”の“動作OS”を参照してください。

機能別動作OS

動作環境定義チェックツールで確認する項目ごとの動作OSを以下に示します。

機能		OS		
		Windows	Solaris	Linux
システムの環境 チェック	ファイアウォール機能の 状態	○	—	—
	TCPポート	○	○	○
	SNMPエージェントの定 義、起動可否	○	○	○
	デスクトップヒープ領域サ イズ	○	—	—
	syslogのメッセージ監視 におけるホスト名の整合 性	—	○	○
	監視対象ノードのICMP 応答	○	○	○
	監視対象ノードのSNMP 応答	○	○	○
システムのファ イルチェック	syslog.confのメッセージ 監視定義	—	○	○
	servicesファイルの定義	○	○	○
	systemファイルの定義	—	○	○
Systemwalker Centric Manager の設 定チェック	hostsファイルの存在・定 義	○	○	○
	ネットワーク・インタフェー スの搭載枚数	○	○	○
	性能監視の監視ポリシー (注)	○	○	○

備考.

○:動作環境定義チェックツールでチェック可能です。

—:チェック対象外です。

注)

性能監視の監視ポリシーをチェックする場合は、以下の2点の確認を行った後、動作環境定義チェックを実施してください。

- ー 性能監視の監視ポリシーが、配付・適用されている。
- ー クラスタ環境の場合、共有ディスクを参照できる状態にある。

その他の環境

動作環境定義チェックツールは、以下のSystemwalker Centric Managerのインストール種別がインストールされている環境で実行できます。

- ・ 運用管理サーバ
- ・ 運用管理クライアント
- ・ 部門管理サーバ
- ・ 業務サーバ

第2章 動作環境定義チェックツールを使用する

動作環境定義チェックツールの使用方法について説明します。

動作環境定義チェックツールは、以下の2とおりで提供しています。

- Systemwalker Centric ManagerのCD-ROM
- Systemwalker技術情報ホームページ

動作環境定義チェックツールは、Systemwalker技術情報ホームページで最新版を公開しており、チェック項目の追加のために更新されます。このため、動作環境定義チェックツールは最新版をダウンロードして使用してください。

2.1 インストールする

動作環境定義チェックツールの導入方法について説明します。

1. 動作環境定義チェックツールを準備する

Systemwalker Centric ManagerのCD-ROM内から使用する場合

以下の場所に動作環境定義チェックツールが格納されています。

Windows版(自己解凍形式)

CD-ROMドライブ:¥tool¥mpdefchk¥mpdefchk¥mpdefchk.exe

UNIX版

- サーバのCD-ROM (tar.gz形式)

CD-ROMのマウントポイント/tool_unx/mpdefchk/mpdefchk.tar.gz

- クライアントのCD-ROM (自己解凍形式)

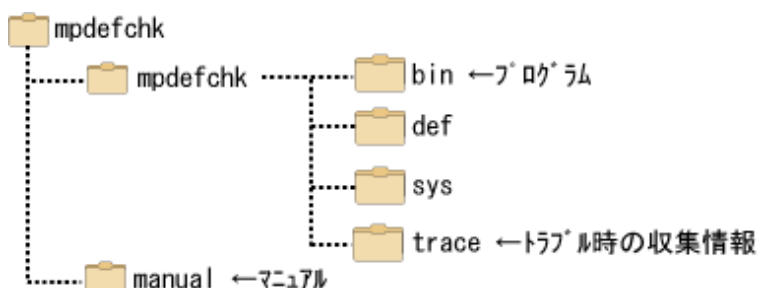
CD-ROMドライブ:¥tool¥mpdefchk¥mpdefchk¥mpdefchk.exe

Systemwalker技術情報ホームページからダウンロードして使用する場合

Systemwalker技術情報ホームページから、動作環境定義チェックツールをダウンロードしてください。

2. 動作環境定義チェックツールをインストールする

1.で準備した動作環境定義チェックツールは圧縮されていますので、解凍してください。動作環境定義チェックツールを解凍すると、実行元のカレントディレクトリ配下に以下のようなフォルダが作成され、ファイルが格納されます。



動作環境定義チェックツール実行時に作成されるログファイルは、traceフォルダに格納されます。

2.2 使用方法

動作環境定義チェックツールの使用方法について、説明します。

1. Systemwalker Centric Managerの環境作成後(性能監視のポリシー適用後)、運用を開始する前、またはSystemwalker Centric Managerの起動時、通信時によるトラブルが発生した直後に、動作環境定義チェックコマンドを実行してください。

－ Windowsの場合

動作環境定義チェックツールを“C:¥”ドライブ配下にインストールした場合

```
C:¥mpdefchk¥mpdefchk¥bin>mpdefchk -a
```

－ UNIXの場合

動作環境定義チェックツールを“/opt”配下にインストールした場合

```
[/opt/mpdefchk/bin]$ mpdefchk -a
```

mpdefchk(動作環境定義チェックコマンド)の詳細については、“[mpdefchk\(動作環境定義チェックコマンド\)](#)”を参照してください。

2. 動作環境定義チェックツールのチェック結果は、コマンドプロンプト上に出力されますので確認してください。

例として、動作環境定義チェックツールを“C:¥mpdefchk”にインストールしている場合、mpdefchkコマンドを2007年3月31日12時に実行すると、以下のような出力結果がコマンドプロンプト上に出力されます。

```
C:¥mpdefchk¥mpdefchk¥bin>mpdefchk -a
```

==定義チェック開始==

☐ファイアウォール機能の状態をチェックしています。

#####

ファイアウォール機能の設定に、例外に指定されていないポートまたはプログラムが存在します。
出力ログファイルをご確認ください。

☐ネットワーク・インタフェースの搭載枚数をチェックしています。

検出されたネットワーク・インタフェースは1つです。ネットワーク・インタフェースが複数搭載されている場合の留意事項はありません。

☐SNMPエージェントの状態をチェックしています。

SNMPエージェントのセキュリティ情報の出力をおこないません。
出力ログファイルをご確認ください。

☐hostsファイルの定義をチェックしています。

問題は検出されませんでした。

☐Servicesファイルの定義をチェックしています。

Servicesファイルに、正しく定義されていないサービスが存在します。
出力ログファイルをご確認ください。

☐デスクトップヒープ領域サイズをチェックしています。

問題は検出されませんでした。

☐TCPポートの接続をチェックしています。

TCPポート接続チェックにおいて、接続に失敗したホストが検出されました。
出力ログファイルをご確認ください。

☐ICMP応答をチェックしています。

#####

ICMP応答チェックにおいて、応答の無いノードが検出されました。
出力ログファイルをご確認ください。

☐SNMP応答をチェックしています。

```
#####
SNMP応答チェックにおいて、応答の無いノードが検出されました。
出力ログファイルをご確認ください。

□性能監視の監視ポリシーをチェックしています。
問題は検出されませんでした。

問題が検出されたチェック項目があります。
詳細は、[.¥mpdefchk20070331120000.log]を確認してください。
==定義チェック終了==
```

- ー 環境定義に誤りがある場合
すべての機能チェックが終了した後、コマンドプロンプト上に問題が検出された項目が出力されます。手順3へ進みます。
- ー 環境定義が正しい場合
すべてのチェック結果に問題がなかった場合は、以下のメッセージが出力されます。以降の操作は必要ありません。

全てのチェックで問題は検出されませんでした

3. 設定の変更を行います。

コマンドプロンプト上に「問題が検出されたチェック項目があります。」と出力された場合は、出力されたメッセージ内容に従って“[MpDefChkで始まるメッセージ](#)”を参照し、設定の変更を行ってください。

```
□ファイアウォール機能の状態チェックにて以下の情報が検出されました
[03/31/2007_12:00:00]MpDefChk: エラー: 01001: Windowsファイアウォールの例外を設定エラー

Windowsファイアウォール機能が「例外を許可しない」に設定されています。
コントロールパネルの[Windowsファイアウォール機能]アプレットにて、「例外を許可しない」のチェックを外してください。
(カレントプロファイル:DOMAIN)
```

4. 環境の定義を再確認します。

動作環境定義チェックツールを再度実行し、変更後の定義に誤りがないかを確認します。

```
==定義チェック開始==
□ファイアウォール機能の状態をチェックしています。

問題は検出されませんでした。
==定義チェック終了==
```

注意事項

- ・ 動作環境定義チェックコマンドは、同時に複数実行しないでください。
- ・ 監視対象ノードのICMP応答チェックでは、ノード状態の監視・ノード状態の表示機能で監視対象としているノードに対して、以下の通りICMPの送信を行い応答の確認を行います。ネットワーク上に負荷がかかるため、実行時には注意してください。
 - ー 対象1ノードあたりのトラフィック量
 - UNIX版 128バイト
 - Windows版 212バイト
 - 25ノードあたり、約1分必要となります。
- ・ 監視対象ノードのSNMP応答チェックでは、ノード状態の表示機能で監視対象としているノードに対して、以下の通りSNMPの送信を行い応答の確認を行います。ネットワーク上に負荷がかかるため、実行時には注意してください。
 - ー 対象1ノードあたりのトラフィック量 :178バイト
 - 25ノードあたり、約1分必要となります。

2.3 アンインストールする

動作環境定義チェックツールのアンインストールについて説明します。

動作環境定義チェックツールがインストールされているフォルダごと削除してください。

第3章 リファレンス

動作環境定義チェックツールで使用するコマンド、ファイル、メッセージについて説明します。

3.1 mpdefchk(動作環境定義チェックコマンド)

機能説明

本コマンドは、さまざまな定義に対するチェックを行い、チェック結果を表示します。

記述形式

mpdefchk	[-h]
mpdefchk	[-a [出力ログファイル名]]
mpdefchk	[-f l s o y v e p g t i n m [出力ログファイル名]]
mpdefchk	[出力ログファイル名]

オプション

オプションをすべて省略した場合:

以下のチェックを行います。

- ファイアウォール機能の状態 (Windows版のみ)
- ネットワーク・インタフェースの搭載枚数
- SNMPエージェントの定義、起動可否
- hostsファイルの存在・定義
- syslog.confのメッセージ監視定義 (UNIX版のみ)
- servicesファイルの定義
- systemファイルの定義 (UNIX版のみ)
- デスクトップヒープ領域サイズ (Windows版のみ)
- syslogのメッセージ監視におけるホスト名の整合性 (UNIX版のみ)

-h:

ツールの使用方法が表示されます。

-a:

ツールでチェック可能なすべての定義をチェックします。

-f|l|s|o|y|v|e|p|g|t|i|n|m:

チェックを行う定義を指定します。

チェックを個別に実行することができるため、必要なチェックを選択してください。複数のチェックをする場合は、連続してオプションを指定してください。

f:

TCP/UDPポート、またはプログラム(プロセス)が、Windowsファイアウォールによりブロックされていないかを確認するために、ファイアウォール機能の状態チェックを行います。(Windowsの場合のみ指定可能です。)

l:

ネットワーク・インタフェースが複数搭載されている場合、各機能の設定、定義に利用するカード(IPアドレス)が定義されているかを確認するために、ネットワーク・インタフェースの搭載枚数チェックを行います。

S:

監視対象ノードのSNMPエージェントの動作環境を確認し、起動可否状態やSNMPエージェントの動作定義を確認するために、SNMPエージェントの定義、起動可否チェックを行います。

O:

hostsファイルが存在しているか、hostsファイルの内容に誤りがないかを確認するために、hostsファイルの存在、定義のチェックを行います。

Y:

syslog.confファイルの内容に誤りがないかを確認するために、syslog.confのメッセージ監視定義チェックを行います。(UNIXの場合のみ指定可能です。)

V:

servicesファイルの内容に誤りがないかを確認するために、servicesファイルの定義チェックを行います。

E:

システムパラメタのチューニングが適切に行われているかを確認するために、systemファイルの定義チェックを行います。(UNIXの場合のみ指定可能です。)

P:

デスクトップヒープ領域サイズが適切な値で設定されていることを確認するために、デスクトップヒープ領域サイズのチェックを行います。(Windowsの場合のみ指定可能です。)

G:

システム内でホスト名の定義が統一されていることを確認するために、syslogのメッセージ監視におけるホスト名の整合性チェックを行います。(UNIXの場合のみ指定可能です。)

T:

Systemwalker Centric Managerが利用するTCPポートが、接続先システムまで到達可能かを確認するために、TCPポートのチェックを行います。

I:

監視対象ノードへのICMP接続の可否を確認するために、監視対象ノードのICMP応答チェックを行います。

M:

監視対象ノードのSNMP応答チェックを行います。

N:

MIBの実装状況、および監視不可能な監視項目を確認するため、性能監視の監視ポリシーチェックを行います。

出力ログファイル名:

チェック結果を出力するログファイル名を指定します。パス名の指定も可能です。

本指定を省略した場合は、mpdefchkフォルダ直下に“mpdefchkYYYYMMDDHHMMSS.log”というファイル名で出力されます。(YYYYMMDDHHMMSSは、実行した日時です。)

復帰値

0:正常終了

チェック処理が正常終了しました。

メッセージは、出力ログファイルに出力されません。

1:正常終了

チェック処理が正常終了し、かつ、エラー/警告/情報のいずれかのメッセージが出力ログファイルに出力されます。

【Windows版】

-1:異常終了

チェック処理が異常終了しました。

【UNIX版】

255:異常終了

チェック処理が異常終了しました。

参照

[動作環境定義チェックコマンドの出力ファイル](#)

コマンド格納場所

Windows	動作環境定義チェックツールインストールディレクトリ¥mpdefchk¥bin
UNIX	動作環境定義チェックツールインストールディレクトリ/mpdefchk/bin

実行に必要な権限/実行環境

【Windows版】

- Administrator権限が必要です。



注意

Windows Vista上で動作環境定義チェックツールを実行する場合

Administratorグループのユーザであっても「管理者」として実行する必要があります。

【UNIX版】

- システム管理者(スーパーユーザ)権限が必要です。

使用例

すべての定義のチェックを行い、チェック結果を“OutPut.log”に出力します。

```
mpdefchk -a OutPut.Log
```

実行結果/出力形式

2007年3月31日12時に動作環境定義チェックツールを実行した場合の実行結果です。

```
C:¥mpdefchk¥mpdefchk¥bin>mpdefchk -a
```

```
==定義チェック開始==
```

☐ファイアウォール機能の状態をチェックしています。

```
#####
```

ファイアウォール機能の設定に、例外に指定されていないポートまたはプログラムが存在します。

出力ログファイルをご確認ください。

☐ネットワーク・インタフェースの搭載枚数をチェックしています。

検出されたネットワーク・インタフェースは1つです。ネットワーク・インタフェースが複数搭載されている場合の留意事項はありません。

☐SNMPエージェントの状態をチェックしています。

SNMPエージェントのセキュリティ情報の出力をおこないました。

出力ログファイルをご確認ください。

☐hostsファイルの定義をチェックしています。

問題は検出されませんでした。

☐Servicesファイルの定義をチェックしています。

Servicesファイルに、正しく定義されていないサービスが存在します。
出力ログファイルをご確認ください。

☐ デスクトップヒープ領域サイズをチェックしています。
問題は検出されませんでした。

☐ TCPポートの接続をチェックしています。
TCPポート接続チェックにおいて、接続に失敗したホストが検出されました。
出力ログファイルをご確認ください。

☐ ICMP応答をチェックしています。

ICMP応答チェックにおいて、応答の無いノードが検出されました。
出力ログファイルをご確認ください。

☐ SNMP応答をチェックしています。

SNMP応答チェックにおいて、応答の無いノードが検出されました。
出力ログファイルをご確認ください。

☐ 性能監視の監視ポリシーをチェックしています。
問題は検出されませんでした。

問題が検出されたチェック項目があります。
詳細は、[.¥mpdefchk20070331120000.log]を確認してください。

==定義チェック終了==

3.2 動作環境定義チェックコマンドの出力ファイル

動作環境定義チェックツールを実行した後に、出力されるファイルについて説明します。

出力ログファイル

ファイル名

動作環境定義チェックコマンドのオプションに指定したファイル名

使用用途

動作環境定義チェックツールのチェック結果を出力するログファイルです。チェック後はこのファイルを参照して、“[MpDefChkで始まるメッセージ](#)”に従い対処してください。

ファイルは、実行する度に蓄積されるため、不要となったファイルは削除してください。

動作状況ログファイル

ファイル名

trace.log

traceNN.log

使用用途

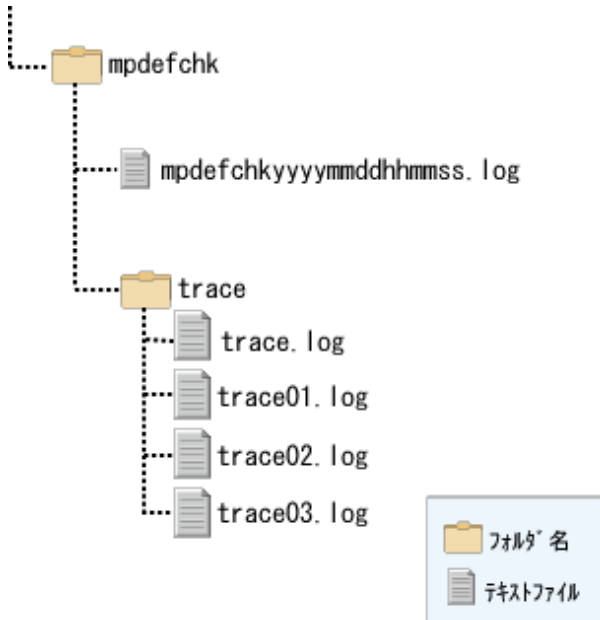
動作環境チェックツールの動作状況を出力するログファイルです。

動作環境チェックツールの異常時には、“[mpdefchkコマンドで出力されるメッセージ](#)”に従い対処してください。問題が解決できない場合は、“[動作状況ログファイル](#)”を富士通技術員に送付し、調査依頼を行ってください。

trace.logのサイズが1MBを超えた時に、trace01.logからtrace02.log、trace03.logの順番で最大3つまで作成されます。トレースログファイルが3つ存在する場合は、trace01.logからtrace03.logの中で最も更新日付が古い履歴のトレースログファイルに上書きします。

ファイルの出力先

上記のファイルは、以下のシステム構成内に出力されます。



3.3 MpDefChkで始まるメッセージ

OSがWindowsとUNIXで、メッセージ種別の出力形式が異なります。

動作環境定義チェックコマンドを実行するマシンのOSによって、以下の表を参考にメッセージ種別を確認してください。

OS	メッセージ種別ごとの出力形式		
Windows	エラー	警告	情報
UNIX	ERROR	WARNING	INFO

以下は、Windowsを導入しているシステム上で出力されたメッセージについて紹介しています。

[Windows]

MpDefChk: エラー: 01001: ファイアウォールの設定をチェックしました。
Windowsファイアウォール機能が「例外を許可しない」に設定されています。
コントロールパネルの[Windowsファイアウォール機能]アプレットにて、「例外を許可しない」のチェックを外してください。
(カレントプロファイル:%プロファイル%)

【メッセージの意味】

Windowsファイアウォール機能の設定が“有効”かつ“例外を許可しない”のチェックボックスがONになっているため、Systemwalker Centric Managerが正常に動作しない可能性があります。

【パラメタの意味】

%プロファイル%: 現在のファイアウォールの動作モードです。「STANDARD」または「DOMAIN」が表示されます。

【対処方法】

コントロールパネルの[Windowsファイアウォール機能]アプレットにて“例外を許可しない”のチェックを解除してください。

[Windows]

MpDefChk: エラー: 01002: ファイアウォールの設定をチェックしました。

Systemwalker Centric Managerで利用する機能のいくつかがWindowsファイアウォール機能によりブロックされています。

以下の機能を利用しているか確認して、利用する場合はコントロールパネルの[Windowsファイアウォール機能]アプレットにて、ポート番号、または、プログラムを例外に追加してください。

(カレントプロファイル:%プロファイル%)

[%1] [%2] [%3]

【メッセージの意味】

Windowsファイアウォールの設定が“有効”になっていますが、Systemwalker Centric Manager が利用するTCP／UDPポートまたはプログラム(プロセス)が例外に設定されていないため、当該機能が正常に動作しない可能性があります。

【パラメタの意味】

%プロファイル%: 現在のファイアウォールの動作モードです。「STANDARD」または「DOMAIN」が表示されます。

%1: 機能名

%2: ポート番号/プロトコル

%3: プログラム名

【対処方法】

コントロールパネルの[Windowsファイアウォール機能]アプレットにて、Systemwalker Centric Manager が利用するTCP／UDPポートまたはプログラム(プロセス)を例外に設定してください。

【注意】

全体監視サーバもしくは運用管理サーバ二重化システム(連携型)環境で、「フレームワーク (2952/tcp)」がブロックされていた場合は対処が必要です。これ以外の構成の運用管理サーバでは「フレームワーク (2952/tcp)」に関する対処は不要ですので無視してください。

[Windows]

MpDefChk: 警告: 01003: ファイアウォールの設定をチェックしました。

Systemwalker Centric Managerで利用する機能のいくつかに対し、Windowsファイアウォール機能によりスコープ(特定のIPアドレスからの通信だけを許可する)が設定されています。スコープが正しいか確認してください。

問題がある場合はコントロールパネルの[Windowsファイアウォール機能]アプレットにてスコープ設定の修正を行ってください。

(カレントプロファイル:%プロファイル%)

[%1] [%2] [%3] [%4]

【メッセージの意味】

Windowsファイアウォールが“有効”になっていますが、Systemwalker Centric Manager が利用するTCP／UDPポートまたはプログラム(プロセス)が例外に設定されているため、設定に問題はありません。

ただし、例外設定の“スコープの変更”にて“カスタムの一覧”が指定されているため、特定のIPアドレスからのアクセスに対してのみ例外設定が有効となる設定になっています。

【パラメタの意味】

%プロファイル%: 現在のファイアウォールの動作モードです。「STANDARD」または「DOMAIN」が表示されます。

%1: 機能名

%2: ポート番号/プロトコル

%3: プログラム名

%4: スコープ

【対処方法】

スコープに表示されているIPアドレスが、正しいアドレスかどうか確認してください。

MpDefChk: 警告: 02001: ネットワーク・インタフェースの設定をチェックしました。

この端末には、複数のネットワーク・インタフェースが搭載されています。

運用管理クライアントのSystemwalkerコンソールを利用する場合は、以下の手順で接続先情報を確認してください。

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric ManagerのSystemwalkerコンソール機能では、動作端末に複数のネットワーク・インタフェースが搭載されている（マルチホーム環境と言う）場合、各機能の設定／定義において、利用するIPアドレスを明に定義する必要があります。

当マシンには複数のネットワーク・インタフェースが搭載されているため、Systemwalker Centric Managerの設定を確認してください。

【対処方法】

運用管理クライアントを使用している場合は、以下の手順で接続先情報を確認してください。

1. 運用管理サーバ上で、"hostname"コマンドを実行し、表示されるホスト名を確認してください。
2. 運用管理クライアントから、(1)のホスト名に対して接続する必要があります。このホスト名が、運用管理サーバの接続可能なIPアドレスで名前解決できるように、運用管理クライアント上で設定されているか確認してください。

(例) 運用管理クライアント上の /etc/hosts または hosts ファイルで名前解決する場合

{IPアドレス} {ホスト名}

※{IPアドレス}: 運用管理サーバ上で使用するLANのIPアドレス

※{ホスト名}: 運用管理サーバ上で"hostname"コマンドを実行して表示される

3. 運用管理クライアント上で、[運用管理クライアントセットアップ]もしくは[Systemwalkerコンソールセットアップ]を起動して、接続先の運用管理サーバのホスト名として(1)のホスト名が指定されているか確認してください。

MpDefChk: 警告: 02002: ネットワーク・インタフェースの設定をチェックしました。

この端末には、複数のネットワーク・インタフェースが搭載されています。

資源配付サーバ機能を利用する場合は、以下の手順で自サーバ定義にノード名が設定されているか確認し、設定されていない場合は自サーバ定義にノード名を設定してください。

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerの資源配付機能では、動作端末に複数のネットワーク・インタフェースが搭載されている（マルチホーム環境と言う）場合、各機能の設定／定義において、利用するIPアドレスを明に定義する必要があります。

当マシンには複数のネットワーク・インタフェースが搭載されているため、Systemwalker Centric Managerの設定を確認してください。

【対処方法】

資源配付サーバ機能を利用する場合は、以下の手順で、自サーバ定義にノード名が設定されているか確認してください。

1. 「drmslst -a sys -k own -l sys」コマンドを実行します。own定義にノード名が設定されているかどうかを確認してください。

ノード名が「*」の場合は設定されていません。

ノード名が設定されていない場合、以下の手順で、自サーバ定義にノード名を設定してください。

2. 「drmsmdfy -a sys -k own -s OWNのシステム名 -n ノード名」コマンドでノード名を設定してください。

ノード名にIPアドレスかホスト名のどちらを設定すれば良いかは、DRMS編集ファイルのnametypeオプションの設定に従ってください。なお、上位サーバで定義されているノード名と一致させる必要があります。

MpDefChk: 警告: 02003: ネットワーク・インタフェースの設定をチェックしました。

この端末には、複数のネットワーク・インタフェースが搭載されています。

イベント監視を利用する場合は、以下の手順でホスト名定義が一致しているかを確認してください。

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのイベント監視機能では、動作端末で発生したメッセージを運用管理サーバに通知する際に、動作端末上の[通信環境定義]-[自ホスト名]の設定で決まるホスト名（これ以降、通信環境定義ホスト名と記載）を使用して通知します。

この時、通信環境定義ホスト名が、Systemwalkerコンソール上の動作端末のノードプロパティ（[ネットワーク]タブ）に設定されたホスト名と異なる場合、ノードプロパティのホスト名が、通信環境定義ホスト名に自動更新されます。

この場合、運用管理サーバ上で、通信環境定義ホスト名から名前解決されるIPアドレスがSystemwalker Centric Managerの通信に使用できないIPアドレスである場合、Systemwalkerコンソールからの動作端末のノードに対する操作が失敗することがあります。そのた

め、通信環境定義ホスト名を、運用管理サーバ側で通信可能なIPアドレスで名前解決されるホスト名と一致させる必要があります。
当マシンには複数のネットワーク・インタフェースが搭載されているため、Systemwalker Centric Managerの設定を確認してください。

【対処方法】

当システムで発生したメッセージを運用管理サーバで監視する場合は、以下の手順でホスト名定義が一致しているかを確認してください。

1. 当システムの[通信環境定義]-[自ホスト名]の設定に対応するホスト名を確認してください。
 2. Systemwalkerコンソール上の、当システムのノードプロパティ([ネットワーク]タブ)に設定されたホスト名を確認してください。
- (1)と(2)で確認したホスト名が異なる場合、当システムからメッセージが通知された場合等に、(2)のホスト名が(1)のホスト名に自動更新されます。
- (2)のホスト名を表示させたい場合は、(1)の設定を(2)のホスト名に対応付ける様に変更してください。

[Windows]

MpDefChk: 警告: 02004: ネットワーク・インタフェースの設定をチェックしました。

この端末には、複数のネットワーク・インタフェースが搭載されています。

リモート操作エキスパート/リモート操作モニタを利用する場合は、以下の場所に、リモート操作エキスパート/リモート操作モニタが通信するIPアドレスが指定されているか確認してください。

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのリモート操作機能では、動作端末に複数のネットワーク・インタフェースが搭載されている(マルチホーム環境と言う)場合、各機能の設定/定義において、利用するIPアドレスを明に定義する必要があります。

当マシンには複数のネットワーク・インタフェースが搭載されているため、Systemwalker Centric Managerの設定を確認してください。

【確認方法】

リモート操作エキスパートを利用する場合は、以下の場所で、リモート操作エキスパートが通信するIPアドレスが指定されているか確認してください。

[オプション]メニュー → [通信方式] → [TCP/IPの設定] → [アダプタの選択]

[Windows]

MpDefChk: 警告: 02005: ネットワーク・インタフェースの設定をチェックしました。

この端末には、複数のネットワーク・インタフェースが搭載されています。

リモート操作クライアントを利用する場合は、以下の場所に、リモート操作クライアントが通信するIPアドレスが指定されているか確認してください。

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのリモート操作機能では、動作端末に複数のネットワーク・インタフェースが搭載されている(マルチホーム環境と言う)場合、各機能の設定/定義において、利用するIPアドレスを明に定義する必要があります。

当マシンには複数のネットワーク・インタフェースが搭載されているため、Systemwalker Centric Managerの設定を確認してください。

【対処方法】

リモート操作クライアントを利用する場合は、以下の場所で、リモート操作クライアントが通信するIPアドレスが指定されているか確認してください。

[スタート]メニュー → [Clientセットアップ] → [TCP/IPの設定] → [アダプタの選択]

MpDefChk: 情報: 02006: ネットワーク・インタフェースの設定をチェックしました。

この端末には、複数のネットワーク・インタフェースが搭載されていますが、資源配付のサービスプロセスが起動していないため、資源配付機能設定のチェック処理はスキップします。

必要があれば、資源配付のサービスプロセスを起動してから、本ツールを再実行してください。

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerの資源配付機能では、動作端末に複数のネットワーク・インタフェースが搭載されている(マルチホーム環境)場合、各機能の設定・定義において、利用するIPアドレスをあらかじめ定義する必要があります。

当マシンには複数のネットワーク・インタフェースが搭載されており、利用するIPアドレスがあらかじめ定義されているかチェックを行おうとしたが、資源配付サービスが起動していないためチェックを行いませんでした。

【対処方法】

利用するIPアドレスがあらかじめ定義されているかチェックを行う場合は、資源配付サービスを起動してから、本ツールを再実行してください。

MpDefChk: 警告: 03001: SNMPサービスの設定をチェックしました。

SNMPサービスがインストールされていません。

SNMPを使用する以下の機能による監視を行う場合は、SNMPサービスのインストールを行ってください。

- ・ノードの検出
- ・ノード状態の表示
- ・MIB監視
- ・性能監視

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのネットワーク管理機能および性能監視機能は、SNMPによって監視を行っています。
当マシンにはSNMPサービスがインストールされていない為、監視を行うことができません。

【対処方法】

OSのヘルプを参照し、SNMPサービスをインストールしてください。
SNMPエージェントとの通信ができないように設定されている場合は、対処不要です。

MpDefChk: 警告: 03002: SNMPサービスの設定をチェックしました。

SNMPサービスが起動抑止されています。

SNMPを使用する以下の機能による監視を行う場合は、SNMPサービスの起動抑止を解除してください。

- ・ノードの検出
- ・ノード状態の表示
- ・MIB監視
- ・性能監視

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのネットワーク管理機能および性能監視機能は、SNMPによって監視を行っています。
当マシンのSNMPサービスは自動起動の設定が抑止されています。

【対処方法】

OSのヘルプを参照し、SNMPサービスが自動的に起動する設定にしてください。
SNMPエージェントとの通信ができないように設定されている場合は、対処不要です。

MpDefChk: 情報: 03003: SNMPサービスの設定をチェックしました。

SNMPエージェント定義と起動確認を行いました。以下の確認をしてください。

コミュニティ名がノードプロパティの設定と一致するか確認してください。一致していない場合はノードプロパティを修正してください。

このノードが属する部門フォルダの部門管理サーバからの要求を受け付ける設定かどうか確認してください。

・コミュニティ名は以下です

%1

%1

・SNMPエージェントは、以下のIPアドレスまたはホスト名からの要求を受け付けます

%2

%2

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのネットワーク管理機能および性能監視機能は、SNMPによって監視を行っています。
当マシンのSNMPサービスの設定情報(コミュニティ名・要求を受け付けるIPアドレスまたはホスト名)が表示されるので、運用管理サーバの設定や、運用管理サーバや部門管理サーバからの要求を受け付ける設定として正しいかどうかを確認してください。

【パラメタの意味】

%1: コミュニティ名が表示されます。ただし、コミュニティ名が設定されていない場合、「コミュニティ名は設定されていません」と表示されます。

%2: SNMPエージェントが要求を受け付けるIPアドレスまたはホスト名が表示されます。ただし、IPアドレスまたはホスト名が設定されていない場合、表示されません。

【対処方法】

表示されているコミュニティ名やIPアドレスまたはホスト名が、運用管理サーバの設定や、運用管理サーバや部門管理サーバからの要求を受け付ける設定として正しいかどうかを確認してください。

【UNIX】

MpDefChk: INFO: 03004: SNMPサービスの設定をチェックしました。

性能監視拡張エージェントがリレーモードでセットアップされているため、セキュリティ確認(コミュニティ名や要求を受け付けるIPアドレスの確認)をスキップします。

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerの性能監視機能は、SNMPによって監視を行っています。

性能監視拡張エージェントがリレーモードで動作している場合、システムが提供する情報だけではチェックすることができないためセキュリティチェック(コミュニティ名や要求を受け付けるIPアドレスの確認)を行いません。

【対処方法】

特にありません。

【Windows】

MpDefChk: エラー: 04001: hostsファイルの存在をチェックしました。

このサーバには、hostsファイルが存在しないため、Systemwalker Centric Managerのネットワーク監視機能が正しく動作しません。

以下のパスに”hosts”(拡張子なし)というファイルを作成してください。(hostsファイルに定義する内容がない場合は、0byteのファイルで構いません。)

%Windowsディレクトリ%\system32\drivers\etc\hosts

【メッセージの意味】

Windowsの場合、Systemwalker Centric Managerのネットワーク監視機能では、hostsファイルが存在しないと正しく動作しません。

【対処方法】

以下のパスに”hosts”(拡張子なし)ファイルを作成してください。

hostsファイルに定義する内容がない場合は、0byteのファイルで構いません。

%Windowsディレクトリ%\system32\drivers\etc\hosts

MpDefChk: 情報: 04002: hostsファイルの定義をチェックしました。

資源配付のサービスプロセスが起動していないため、資源配付向けのhosts定義のチェック処理をスキップします。

【メッセージの意味】

資源配付サービスのプロセスが起動していない場合は、資源配付向けのhosts定義のチェック処理(IPアドレスによるホスト名の名前解決)を行いません。

【対処方法】

特にありません。

MpDefChk: エラー: 04003: hostsファイルの定義をチェックしました。

IPアドレスによるホスト名の名前解決ができないため、資源配付機能が正常動作しない可能性があります。

ローカルhostsファイルあるいはDNS定義で、IPアドレスとホスト名が順引き・逆引きで同じIPアドレス、ホスト名が求まる環境定義を行ってください。

名前解決に失敗したホスト名は以下の通りです。

「%1」

【メッセージの意味】

IPアドレスによるホスト名の名前解決ができないため、資源配付機能が正常動作しない可能性があります。

【パラメタの意味】

%1: 名前解決に失敗したホスト名が表示されます。

【対処方法】

ローカルhostsファイル、あるいはDNS定義で、IPアドレスとホスト名が順引き・逆引きで同じIPアドレス、ホスト名が求まる環境定義を行ってください。

【UNIX】

MpDefChk ERROR: 05001: シスログの設定(syslog.conf)をチェックしました。
/etc/syslog.conf内の以下のSystemwalker Centric Managerの定義において、不当な位置に空白または文字が含まれています。
facility.levelと出力先ファイルの間の区切り文字をタブにしてください。
%1

【メッセージの意味】

/etc/syslog.conf内の監視対象のfacility.levelを示す定義において、facility.levelと出力先ファイルの間に空白が含まれています。この場合、定義が無効になり、監視対象のメッセージがSystemwalker Centric Managerにありません。

【パラメタの意味】

%1: /etc/syslog.conf内の該当の行が表示されます。

【対処方法】

facility.levelと出力先ファイルの間の区切り文字を全てタブにしてください。

【UNIX】

MpDefChk ERROR: 05002: シスログの設定(syslog.conf)をチェックしました。
/etc/syslog.conf内のSystemwalker Centric Managerの監視対象のfacility.levelを示す定義の文字列にて、ASCIIコード以外の文字が使用されています。
定義にはASCIIコード文字のみを使用してください。

【メッセージの意味】

/etc/syslog.conf内の監視対象のfacility.levelを示す定義において、facility.levelと出力先ファイルを指定している文字列にASCIIコード以外の文字が含まれています。
この場合、定義が無効になり、監視対象のメッセージがSystemwalker Centric Managerにありません。

【対処方法】

facility.levelと出力先ファイルを指定している文字列をASCIIコード文字のみで指定してください。

MpDefChk: エラー: 06001: Servicesファイルの定義をチェックしました。
Servicesファイルに以下のサービスが定義されていません。
Servicesファイルをテキストエディタで編集し、該当のサービスを登録してください。
【注意】プロトコル名およびポート番号が重複しないように設定してください。
ポート番号が既に別のサービス名で登録されている場合は、ネットワーク全体で一意になるように、全サーバクライアントでServicesファイルの定義変更が必要です。
Servicesファイル名: %1
[サービス名], [ポート番号], [プロトコル], [エラー内容]
[%2], [%3], [%4], [%5]

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerが利用する通信プロトコルとポート番号の一部は、OSのServicesファイルに事前に登録しておく必要があります。

【パラメタの意味】

%1: Servicesファイルのパス
%2: サービス名
%3: ポート番号

%4: プロトコル
%5: エラー内容

【対処方法】

Servicesファイルをテキストエディタで編集し、該当のサービスを登録してください。



.....

プロトコル名およびポート番号が重複しないように設定してください。
ポート番号が、既に別のサービス名で登録されている場合は、ネットワーク全体で一意になるように、全サーバ/クライアントでServicesファイルの定義変更が必要です。

.....

[UNIX]

**MpDefChk: ERROR: 07001: システムパラメタの設定をチェックしました。
OSのシステムパラメタのチューニングが以下の項目で適切に行われていません。
マニュアル「導入手引書」より「システムパラメタのチューニング」を参照し、適切な値にチューニングしてください。
[%1], [%2], [%3], [%4], [%5]**

【メッセージの意味】

UNIX系OSにSystemwalker Centric Manager 運用管理サーバ、部門管理サーバ、業務サーバを導入する場合、システムパラメタのチューニングを行う必要があります。

【パラメタの意味】

%1: パラメタ名
%2: パラメタ値
%3: プロジェクト名 (Solaris 10の場合だけ出力されます)
%4: 権限 (Solaris 10の場合だけ出力されます)
%5: 異常の原因
以下の3通りです。

- ・ 最小必要値以下です。(最小必要値:nnnnn)
- ・ 権限が誤っています。(必要権限:#####)
- ・ パラメタ設定がありません。

【対処方法】

“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“システムパラメタのチューニング”を参照し、適切な値にチューニングしてください。

[Windows]

**MpDefChk: 警告: 08001: デスクトップヒープ領域サイズをチェックしました
この端末は、デスクトップヒープ領域が小さいため、資源配付機能など Systemwalker Centric Managerの一部の機能
を利用する際に、以下のメッセージが出力されてプロセスの起動に失敗する可能性があります。**

【メッセージの意味】

Windows において、デスクトップヒープ領域がデフォルト値である場合、ヒープ領域が小さく、プロセスの起動に失敗する場合があります。本エラーが発生する主原因は、Windowsのデスクトップヒープ領域の枯渇です。

【対処方法】

レジストリのバックアップを作成した後、修正してデスクトップヒープを拡大してください。適正値を見積もる方法はありませんので、徐々に拡大してください。
レジストリのバックアップ手順は以下の通りです。

1. レジストリエディタを起動します。

[スタート]-[ファイル名を指定して実行]で“regedt”(または“regedt32”)と入力して[OK]ボタンを押してください。

2. SubSystemsキーに移動します。

HKEY_LOCAL_MACHINEサブツリーから次のキーに移動します。

¥System¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥SubSystems

3. [ファイル]メニューで[エクスポート]を選択します。
4. [エクスポート範囲]の[選択された部分]をチェックします。
5. ファイル名を入力し、[保存]を押してください。

* 異常が発生した場合、作成したバックアップファイルをインポートしてください。

レジストリの修正手順は以下の通りです。

1. レジストリエディタを起動します。

[スタート]-[ファイル名を指定して実行]で“regedt”(または“regedt32”)と入力して[OK]ボタンを押してください。

2. SubSystemsキーに移動します。

HKEY_LOCAL_MACHINEサブツリーから次のキーに移動します。

¥System¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥SubSystems

3. [Windows] の値を選択します。
4. [編集] メニューで [文字列] を選択します。
5. SharedSectionパラメタの値を変更し、デスクトップヒープを増加させます。

3番目の値“zzzz”を増加(256KB、または512KBずつ)させてください。
SharedSection=xxxx,yyyy,zzzz



- 1番目の値“xxxx”と2番目の値“yyyy”は変更する必要はありません。
- “zzzz”が省略されている場合、省略値は“yyyy”と同じ値になります。“yyyy”よりも大きな値を“zzzz”に設定してください。(パラメタに指定する数値の単位は“KB”です。)

変更前: SharedSection=1024,3072,512

変更後: SharedSection=1024,3072,1024

6. システムを再起動します。



レジストリを修正して、デスクトップヒープを拡大する方法についての詳細は、「マイクロソフト サポート技術情報 - 126962」を参照してください。また、デスクトップヒープについては「マイクロソフト サポート技術情報 - 184802」を参照してください。
また、Windows Server 2003以降のOSで、上記の設定を実施しても問題を解消できない場合は、以下レジストリでデスクトップヒープ領域のサイズを直接指定して、拡張してください。

- ハイブ: HKEY_LOCAL_MACHINE
- キー: System¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥ Memory Management
- 値名: SessionViewSize
- パラメタ: 数値(MB)

ポップアップで表示されるエラーメッセージ

「ダイナミックリンクライブラリ C:\¥WINNT¥system32¥xxx.DLL の初期化に失敗しました。プロセスは異常終了します。」
※”xxx.DLL”の部分は可変であり、Kernel32.dll, COMCTL32.DLL, USER32.DLL などが入ります。

イベントログに表示されるエラーメッセージ

「プロセス名 - アプリケーション エラー : アプリケーションを正しく初期化できませんでした (0xc0000142)」
※”プロセス名”の部分は可変であり、invdrms.exe などが入ります。

.....

[UNIX]

MpDefChk: WARNING: 09001: syslogのメッセージ監視におけるホスト名の整合性をチェックしました。
syslogのメッセージファイル(%1)の中に、ホスト名(%host2)が付加されたメッセージが見つかりました。このホスト名(%host2)はunameコマンドで取得される自ホスト名(%host1)とは異なるため、対象のメッセージがsyslogdから通知されてもSystemwalker Centric Managerでは監視対象外となります。対象のメッセージが他システムからsyslog転送されたメッセージである場合は、監視はできません。
%2

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerにおけるsyslogのメッセージ監視では、自システムで発生したメッセージのみを監視対象としています。(他システムからsyslog転送されたメッセージは監視対象外としています)

自システムで発生したメッセージか否かの判断材料として、uname()関数で取得するホスト名とsyslogデーモンから通知されたメッセージに付加されたホスト名の比較を行っています。システム内でホスト名の定義が統一されていない場合、自システムで発生したメッセージであってもホスト名の比較結果が不一致となり、メッセージ監視ができません。

【パラメタの意味】

%1 : syslogのメッセージファイル名 (例:/var/log/messages)

%host1 : uname()関数で取得したホスト名

%host2 : syslogのメッセージファイルから切り出したホスト名

%2 : Linuxの場合のみ、以下のように表示します。

「/etc/hostsと/etc/sysconfig/networkの自ホスト名定義の不一致が原因である可能性がありますので確認して下さい。」

【対処方法】

- 他システムからsyslog転送されたメッセージである場合

転送先システムで監視することはできません。

監視する場合は、転送元システムにSystemwalker Centric Managerを導入する必要があります。

- 上記以外の場合 (Linuxの場合のみ)

/etc/hostsと/etc/sysconfig/networkの自ホスト名定義の不一致が原因である可能性があります。この場合は、自ホスト名定義を一致させてください。

MpDefChk: 警告: 10001: TCPポートの接続をチェックしました。

以下に示す通信先への接続が出来ません。

以下の確認を行ってください。

【確認内容】

・相手先のプロセスが起動していない

・ネットワーク上のファイアウォール等の機能により、通信が遮断されている

・通信元、もしくは通信先のOSの機能により通信が遮断されている

(例: WindowsOSのファイアウォール機能など)

[接続先], [機能名], [ポート番号], [情報]

[%1], [%2], [%3], [%4]

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerの監視対象に対してネットワーク上のトラブルや、Firewallによる経路上の遮断、監視対象ノード上でのFirewall機能による通信不可により、通信ができずに監視不可となる場合があります。

当マシンにおいてTCP接続が失敗した接続先の情報を表示します。

【パラメタの意味】

%1: 接続先のIPアドレス

%2: 機能名

%3: ポート番号

%4: 情報

以下の何れかのメッセージが表示されます。

- ・ 資源配付サービスが起動していないためチェックを行いません。
- ・ tcp/ip通信種別ではないためチェックを行いません。
- ・ 対象のホストへのpingに失敗しました。
- ・ ホスト名がIPアドレスに変換できません。
- ・ 対象のホストに接続を拒否されました。
- ・ 接続に失敗しました。(エラー番号)

【対処方法】

以下の確認を行い、必要な対処を行ってください。

- ・ "資源配付サービスが起動していないためチェックを行いません。"の場合
資源配付サービスを起動してください。
- ・ "tcp/ip通信種別ではないためチェックを行いません。"の場合
tcp/ip通信を行わないだけなので、対処をする必要はありません。

- ・ "対象のホストへのpingに失敗しました。"の場合

以下の確認を行い、必要な対処を行ってください。ネットワーク上のファイアウォール等の機能により、通信が遮断されている、または通信元、通信先のOSの機能により通信が遮断されている可能性があります。ICMP用ポートを空けてください。
(例: OSのファイアウォール機能など)

- ・ "ホスト名がIPアドレスに変換できません。"の場合

各定義に記載されているホスト名が正しいかを確認してください。

- ー 資源の配付先に指定したホスト名
- ー DRMS編集ファイルのscheduleオプションで指定されているスケジュールファイルに設定されている通知先のホスト名
- ー システム監視エージェントのメッセージ送信先に指定したホスト名
- ー [アクション環境設定]画面のアクション実行先に指定したホスト名

- ・ "対象のホストに接続を拒否されました。"の場合

接続先でSystemwalker Centric Managerのサービスが動作していない可能性があります。接続先のSystemwalker Centric Managerが正常に起動しているか、確認してください。

- ・ "接続に失敗しました。(エラー番号)"の場合

ネットワーク環境で異常が検出されました。送信元、送信先の状態を確認してください。ネットワークの問題が判明しない場合は、トレースログファイルを技術員に送付し、調査依頼をしてください。

MpDefChk: エラー: 11001: 監視対象ノードの設定をチェックしました。

以下に示す監視対象ノードへのネットワーク接続確認が出来ませんでした。ネットワークの確認を行ってください。

[%1] [%2] [%3]

以下の監視対象ノードに対する監視は設定されていません。

監視を行う場合、有効のポリシーを設定してください。

[%1] [%2] [%3]

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのネットワーク管理機能では、監視対象ノードの起動を確認するために、ICMPを使用しています。
ICMP接続が失敗した監視対象ノードの情報を表示します。
また、監視対象に設定されていないノードの情報も表示します。

【パラメタの意味】

%1: 接続先のホスト名
%2: 接続先のIPアドレス
%3: 機能名

【対処方法】

ネットワーク接続確認ができなかった監視対象ノードに対して、ネットワーク接続の確認を行ってください。
監視対象ノードに設定されていないノードに対して、監視を行う場合、有効のポリシーを設定してください。

MpDefChk: 警告: 11002: 監視対象ノードの設定をチェックしました。

以下の監視対象ノードに対する監視は設定されていません。

監視を行う場合、有効のポリシーを設定してください。

[%1] [%2] [%3]

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのネットワーク管理機能において、監視対象ノードに設定されていないノードの情報を表示します。

【パラメタの意味】

%1: 接続先のホスト名
%2: 接続先のIPアドレス
%3: 機能名

【対処方法】

監視対象ノードに設定されていないノードに対して、監視を行う場合、有効のポリシーを設定してください。

MpDefChk: 警告: 12001: 監視対象ノードの設定をチェックしました。

以下に示す監視対象ノードからSNMPの応答を受信出来ません。ネットワークの確認/SNMPエージェントの設定・状態の調査を行ってください。

[%1],[%2]

以下の監視対象ノードに対する監視は設定されていません。

監視を行う場合、有効のポリシーを設定してください。

[%1],[%2]

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのネットワーク管理機能では、監視対象ノードの各種情報をSNMPエージェントの応答により確認しています。

SNMPエージェントの応答が無い監視対象ノードの情報を表示します。

また、監視対象に設定されていないノードの情報も表示します。

【パラメタの意味】

%1: 接続先のホスト名
%2: 接続先のIPアドレス

【対処方法】

SNMPエージェントの応答が無い監視対象ノードに対して、ネットワーク接続の確認/SNMPエージェントの設定・状態の調査を行ってください。

SNMPエージェントとの通信ができないように設定されている場合は、対処不要です。

MpDefChk: 警告: 12002: 監視対象ノードの設定をチェックしました。
以下の監視対象ノードに対する監視は設定されておりません。
監視を行う場合、有効のポリシーを設定してください。
[%1],[%2]

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのネットワーク管理機能において、監視対象ノードに設定されていないノードの情報を表示します。

【パラメタの意味】

%1: 接続先のホスト名
%2: 接続先のIPアドレス

【対処方法】

監視対象ノードに設定されていないノードに対して、監視を行う場合、有効のポリシーを設定してください。

MpDefChk: エラー: 13001: 性能監視ポリシーをチェックしました。
以下のホスト名のSNMPエージェントから応答が無いため、ネットワーク性能の監視が行えない可能性があります。
ネットワーク接続の確認/SNMPエージェントの設定・状態の調査をおこなってください。
%1

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのネットワーク性能監視機能では、SNMPエージェントのMIBの情報を使用しています。
SNMPエージェントの応答が無い監視対象ノードのホスト名を表示します。

【パラメタの意味】

%1: 接続先のホスト名

【対処方法】

SNMPエージェントの応答が無い監視対象ノードに対して、ネットワーク接続の確認/SNMPエージェントの設定・状態の調査を行ってください。

MpDefChk: エラー: 13002: 性能監視ポリシーをチェックしました。
以下のホスト名から必要なMIBを取得できないため、ネットワーク監視は一部の項目を監視しません。
必要なMIBが取得出来ない監視対象ノードに対して、SNMPエージェントの設定・状態の調査をおこなってください。
ホスト名: %1
監視しない項目:
・%2 (インタフェース=%3, %3, ...)
取得できなかったMIB: %4, %4, ...

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのネットワーク性能監視機能では、SNMPエージェントのMIBの情報を使用しています。
必要なMIBが取得できない監視対象ノードのホスト名を表示します。

【パラメタの意味】

%1: 接続先のホスト名
%2: 監視しない項目

- ・ 回線使用率 (インタフェース=%3)
- ・ 受信バイト数 (インタフェース=%3)
- ・ 送信バイト数 (インタフェース=%3)
- ・ 受信パケット数 (インタフェース=%3)
- ・ 送信パケット数 (インタフェース=%3)
- ・ 破棄パケット率 (インタフェース=%3)

- ・ エラーパケット率(インタフェース=%3)
- ・ セグメントバイト数(インタフェース=%3)
- ・ セグメント使用率(インタフェース=%3)
- ・ セグメントパケット数(インタフェース=%3)
- ・ セグメントコリジョン発生率(インタフェース=%3)
- ・ セグメントブロードキャストパケット数(インタフェース=%3)
- ・ セグメントマルチキャストパケット数(インタフェース=%3)
- ・ CPU使用率
- ・ ページフォルト数
- ・ DISKビジー率

%3: インタフェース番号(監視しない項目のインタフェース)

%4: 取得できなかったMIB

【対処方法】

必要なMIBが取得できない監視対象ノードに対して、SNMPエージェントの設定・状態の調査を行ってください。

ただし、監視対象ノードのページフォルト数、CPU使用率、DISKビジー率のサーバ性能監視を行っていない場合は、本メッセージを無視してください。

また、当該ノードのOSがLinuxの場合、送受信パケット数等のMIBが実装されていないために本メッセージが出力されます。この場合も本メッセージを無視してください。

MpDefChk: エラー: 13003: 性能監視ポリシーをチェックしました。

以下のホストの ifSpeed の値が 0 になっています。

マニュアルを参照し、回線速度の手動設定をおこなってください。

ホスト名: %1

ifSpeed. %2, ifSpeed. %2 ...

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerのネットワーク性能監視機能では、SNMPエージェントのMIBの情報を使用しています。

ifSpeedの値が取得できないか0が設定されている場合、その監視対象ノードのホスト名とifSpeedを表示します。

【パラメタの意味】

%1: 接続先のホスト名

%2: 値が0になっているifSpeedのインタフェース番号

【対処方法】

[Systemwalkerコンソール]の監視マップで、問題のノードを選択します。

[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]-[ネットワーク性能]-[ノード]を選択します。

[ノード設定]画面で、[詳細]ボタンをクリックします。

[インタフェース設定]画面で、問題のインタフェースを選択し、[変更]ボタンをクリックします。

[インタフェース情報設定]画面で、[回線速度(bps)]の項目を設定します。

ポリシーを作成し、配付・適用します。

3.4 mpdefchkコマンドで出力されるメッセージ

動作環境チェックツールの異常時には、各メッセージの対処方法に従い対処してください。その上で、問題が解決できない場合は、[動作状況ログファイル](#)を富士通技術員に送付し、調査依頼をしてください。

ポイント

.....
例) 動作環境定義チェックツールを実行した結果、ポート番号が未定義であると指摘されたが、実際にservicesファイルを確認すると、正常に指定がされていた場合

動作環境定義チェックツールの動作が、異常動作したと思われますので、trace.logおよびtraceNN.logを富士通技術員に送付し、調査依頼をしてください。
.....

It is not possible to execute it because of [CPU] of off the subject.

【メッセージの意味】

本ツールの未サポートのCPU環境です。

【対処方法】

“動作環境”を確認して、サポート範囲内で利用してください。

It is not possible to execute it because of [OS] of off the subject.

【メッセージの意味】

本ツールの未サポートのOS環境です。

【対処方法】

“動作OS”を確認して、サポート範囲内で利用してください。

必要なファイルまたはディレクトリが存在しません。ツールを再インストールしてください。

【メッセージの意味】

本ツールのインストールに失敗しています。

【対処方法】

“インストールする”を確認して、再インストールを実施してください。

引数の指定方法が間違っています。

【メッセージの意味】

本ツールへの指定オプションが誤っています。

【対処方法】

“mpdefchk(動作環境定義チェックコマンド)”を確認して、正しいオプションを指定してください。

無効なオプションが指定されました。

【メッセージの意味】

本ツールへのチェックを行う定義の指定オプションが誤っています。

【対処方法】

“mpdefchk(動作環境定義チェックコマンド)”を確認して、正しいオプションを指定してください。

出力ログファイルにアクセスできません。ファイル名をご確認ください。

【メッセージの意味】

本ツールに指定している出力ログファイル名のパスが誤っているか、書き込みできません。

【対処方法】

出力ログファイル名のパスが存在するか確認してください。
また、指定したパスおよびファイルに書き込み権限があるか確認してください。

Systemwalker Centric Manager がインストールされていません。

【メッセージの意味】

本ツールは Systemwalker Centric Managerがインストールされていない環境では動作できません。

【対処方法】

Systemwalker Centric Managerがインストールされている環境で利用してください。

Systemwalker Centric Manager が動作範囲外のバージョンです。

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerが、本ツールの未サポートのバージョンです。

【対処方法】

“動作環境”を確認して、サポート範囲内で利用してください。

権限が足りない為実行できません。管理者権限を持つユーザで実行してください。

【メッセージの意味】

本ツールを管理者権限以外のユーザで実行しています。

【対処方法】

“mpdefchk(動作環境定義チェックコマンド)”の“実行に必要な権限/実行環境”を確認して、サポート範囲内で利用してください。

二重起動されています。動作環境定義チェックコマンドは、同時に複数実行しないでください。

【メッセージの意味】

本ツールが同時に2つ起動されています。

【対処方法】

本ツールを同時に2つ起動することはできません。

すでに起動しているツールが終了するのを待ってから、起動してください。